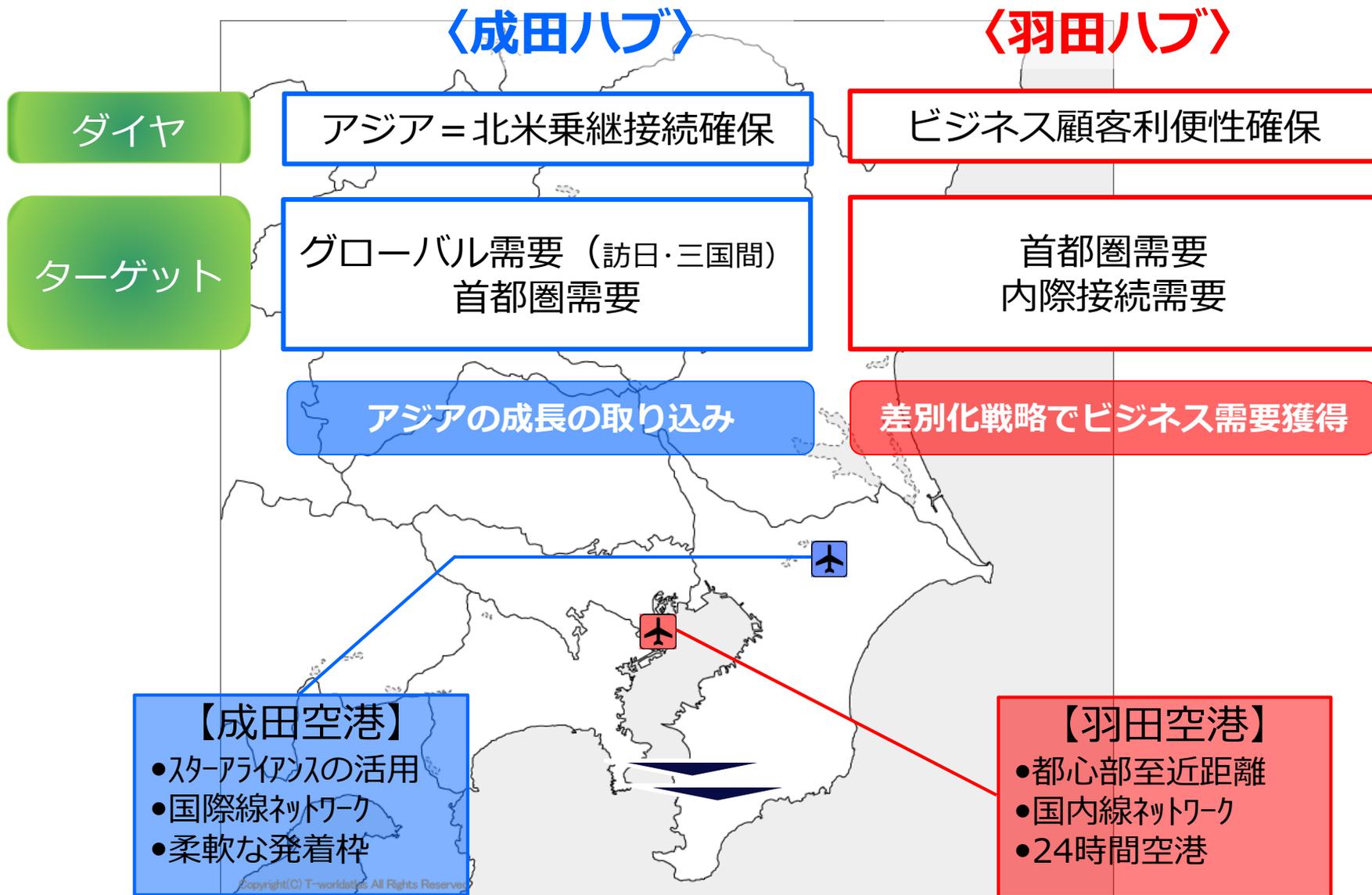


今後の首都圏空港の活用および機能強化に伴う ANAの取り組みについて

平成27年1月21日
全日本空輸株式会社
上席執行役員
マーケティング室長 稲田 健也



1. 成田・羽田両ハブ空港の位置づけ





2. 2015年度 成田発着便計画（サマー期間）

1. 成田発着国際旅客便

- ① 成田＝ヒューストン線（6月より開設） 7往復/週
- ② 成田＝クアラルンプール線（9月より開設） 7往復/週
- ③ 成田＝シンガポール線（6月より増便） 7往復/週 → 14往復/週
- ④ 成田＝ホノルル線（7月より増便） 7往復/週 → 14往復/週
- ⑤ 成田＝バンコク線（8月より増便） 7往復/週 → 14往復/週

成田発着の国際旅客便は2015年度サマーダイヤより、35便/週（5便/日）増便致します。

2. 成田発着国際貨物便

- ① 成田＝広州線（3月より増便） 1往復/週
※ 成田－広州－沖縄の6往復/週は継続運航



3. 安全への取り組み

- ANAグループにとって安全は経営の基盤であり、業種・ブランドにかかわらずグループすべての事業において守るべき絶対的な使命です。中でも安全運航は、さまざまな職種が互いに連携して支えており、相互の理解と信頼が特に重要です。そのため、ANAグループ社員共通の誓いである「安全理念」と「安全行動指針」はグループすべての職場で掲げられ、日々の業務の中で強く意識されるとともに、社員一人ひとりの行動の拠りどころとなっています。
- ANAグループの全社員が経営理念・ビジョンの達成に向け、持つべき心構えや、取るべき行動を表したグループ行動指針（ANA's Way）においても、「安全」を最重要項目としております。

ANAグループ安全理念

安全は経営の基盤であり
社会への責務である

私たちはお互いの理解と信頼のもと
確かなしくみで安全を高めていきます

私たちは一人ひとりの責任ある誠実な
行動により安全を追求します

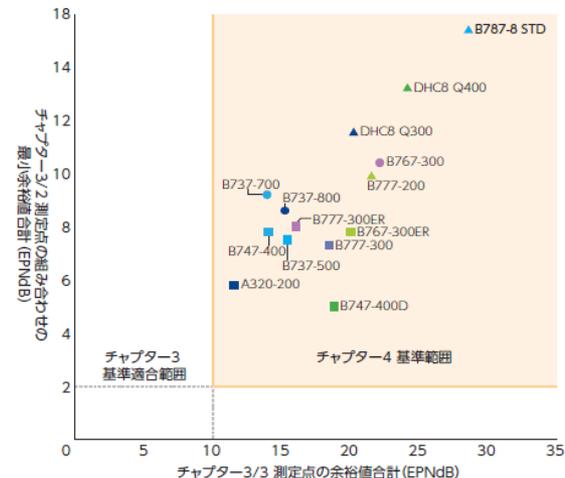
ANAグループ安全行動指針

- ① 規定・ルールを遵守し、基本に忠実に業務を行います。
- ② プロフェッショナルとして、健康に留意し常に安全を最優先します。
- ③ 疑問や気づきを声に出し、他者の意見を真摯に受け止めます。
- ④ 情報はすみやかに伝え、共有します。
- ⑤ 未然・再発防止のために自ら改善に取り組み続けます。
- ⑥ 社内外の教訓から学び、気づきの能力を磨きます。



4. 騒音問題への取り組み

- ANAグループが保有する全機材は、ICAO（国際民間航空機関）騒音基準のうち、最も厳しいチャプター4に適合しております。
- 最新鋭機ボーイング787型機は、エンジンのシェブロン（ギザギザ）形ノズルや新素材等の最新技術を積極的に採用し、格段の騒音低減を実現しております。



- 地上に与える騒音影響を少なくするため、種々の飛行方式を工夫しております。

▶ ANAが実施している主な騒音軽減運航方式

	方式	概要	
離陸	急上昇方式	通常より高い高度(3,000フィート)まで離陸上昇を継続し、高騒音を極力空港地域内に収めるとともに、住居地域での高度を確保し騒音を抑制する。	
着陸	ディレイドフラップ進入方式	フラップと脚を下げるタイミングを遅くし、機体の空気抵抗を減らして、必要なエンジン推力を減らし、騒音を抑制する。	
	低フラップ角着陸方式	最終着陸時使用するフラップ角を小さくセットし、機体の空気抵抗を減らして、必要なエンジン推力を減らし、騒音を抑制する。	
離着陸	優先滑走路方式	滑走路の一方に居住地域がない場合、風向、風速から可能な限り、その方向で離着陸を行う。	
	優先飛行経路方式	空港周辺(低高度)で旋回などにより、居住地を極力迂回したり、河川上の経路を選択する。	